

# Role of Interfirm Transaction on Agglomeration and Coagglomeration: Evidence from Japanese Firm-level Data

中島 賢太郎\* 齊藤 (梅野) 有希子† 植杉 威一郎‡

2010年1月22日

## 概要

本稿は、企業間取引が産業集積に果たす役割について、日本の企業間取引データを用いて分析したものである。まず企業間取引データにおける企業立地情報から、Ellison and Glaeser (1997, *Journal of Political Economy*) の集積指数を計算し、産業ごとにその集積の深度を同定した。続いて取引情報から産業ごとに同業種内取引の密度について指数化を行い、集積と取引との相関関係について分析した。その結果、同業種内取引の密度は、その産業の集積深度について有意に正の効果を持つことが示された。さらに同様の分析を産業ペアの集積を示す *coagglomeration* を対象に行ったところ、取引は *coagglomeration* に対してより頑健に正の効果を持つことが示された。これらの結果はこれまで理論的には知られてきた、企業間の取引が産業集積のひとつの要因であることを実証的に示した結果であるといえる。

*Keywords:* Micro-geographic data; Network economy; Economic geography

*JEL classification:* R11, L14

---

\* 東北大学大学院経済学研究科

† 富士通総研・一橋大学経済研究所

‡ 一橋大学経済研究所